

都留高校 図書館通信

令和3年度 2号

今、北館4階の図書室は、緑の波の展望台です。町中が、新緑と紅葉の低山にすっぽり包まれる時季の大月は、日本一美しいと、かねがね思ってきました。様々な山を見てきた感想です。普通だと思っている景色や経験が、実は価値のあるものだった、ということあるかもしれませんね。

薫風自南来、気持ちいい風を感じに、図書室へ来て下さい。



★★★4月の利用状況を報告します。

貸出冊数

	1年次	2年次	3年次	定時制	合計	教職員
冊数	339	79	38	22	478	160
平均冊数	2.13	0.46	0.18	2.75	0.86	

★★★月間多読賞には賞品さしあげます～♪

本を

選ぶコツ 読むコツ 続けるコツ

厚い本は読み切る自信がないから借りない、知らない本には手を出さない、そんな声を耳にしました。友だちをつくるとき、「やあ」とか「こんにちは」とか、声をかけてみるでしょう。本だってそう。まずは、手に取って、開いて、本の「初めまして」の挨拶を受け取ってみようよ。

♠いろいろな本の呼び方がある。

◆単行本（たんこうぼん）：

単独で出版される本で、新作は単行本で出版されることが多い。図書室の新着図書コーナーでよく見かける大きめの本。「ハードカバー」と呼んだりもするよ。あらすじが分かるように、小説には本の「帯」を貼っているのだから、開いて見よう。

◆文庫本（ぶんこぼん）：

単行本の名作や人気の本を、単行本より安く小さくして、〇〇文庫と呼んで各社で出版している。文庫本の特徴は、あらすじや解説があること。どんな本か理解してから読めるから、難解な近代文学も文庫本で読むと分かりやすい。

◆新書（しんしょ）：

新書は、文庫本より縦長で薄い、新書版というサイズの本。『読解力をつける』、『SDGs入門』などのように、専門分野の解説書などが多く、調べ学習や小論文に役立つよ。ちなみに「新刊」は、新しく出版された本のことなのでお間違えなく。

♠「初めまして」の挨拶とは？

- ①手に取って、表紙や裏表紙を見る。あらすじや紹介文、著者のプロフィールがあったりする。
- ②ページをめくる。「はじめに」や「あとがき」で、出版の目的や経緯、著者の思い入れが語られていたりする。
- ③目次を見て、興味を持ったページをピンポイントで読んでみる。
- ④どんな本か見当が付いたね。いざ、本の世界に踏み出してみよう。

♠「じゃあ、またね」でもOK！

- ⑤読み始めて、難しいな、自分が探していた内容と違った、など違和感があったら、無理に最後まで読まなくていいんだよ。
- ⑥大事なことは、本との出会いを重ねること。読書もトレーニングが必要。読み続けると選ぶコツ、読むコツ、続けるコツが身について、必ず読めるようになっていくからね。

次ページで、おすすめの新刊を紹介します。気になった本は手に取って、開いてみてください。

図書室で

思いっきり、部活！

去年を乗り越えたキミたちだから
もっと強く。もっと高く。青春を止めるな！

『あの夏の正解』
早見和真 新潮社
(783/ハ)

愛媛の済美と石川の星稜高校野球部が「甲子園のない夏」をどう受け止めたのか。「彼らの心がかもとも揺れていた」昨年5月からの3ヶ月間に密着した。「君たちを支えるものは何?」「なぜ辞めずに続けるの?」。元高校球児の著者が直球の質問を投げる。作家重松清は「これは、あの夏を生きるすべての人の、無念と希望の物語なのだ。」と帯に寄せた。

『ドキュメント』
湊かなえ KADOKAWA
(913.6/ミ)

ケガで陸上を諦めた青海学院一年の圭祐は、同級生の正也に誘われ放送部に。全国大会Jコン出品のためのドローン撮影で、陸上部の親友良太が煙草を手にも部室を出る姿が映っていた。報道とは。伝えるとは。圭祐たち放送部員の真摯な自問自答がアツい。高校生に戻れたら、私も放送部に入りたい。前作『ブロードキャスト』と合わせてどうぞ！

『デザイン書道マニュアル』
美登英利 グラフィック社
(728/ミ)

書をビジュアルとして広告や商品に用いる「デザイン書」。書道が苦手だったグラフィックデザイナーが、書の「いろは」を知らなくても書けるデザイン書の魅力を伝える。基本の書き方、道具や技法、店のロゴを創作するケーススタディや実践まで、懇切丁寧に教えてくれるよ。ページをめくる度に、美しい、楽しい。書の、文字の力を目の当たりにして！

今を読む新刊

『サクッと分かるビジネス教養 東南アジア』 助川成也 新星出版社 (302/ト)
近くて遠い東南アジアの国々の文化、政治、宗教、歴史、日本との関係を知ろう。

『魂の発電所 負けねど福島 オレたちの再エネ十年物語』 池尾伸一 徳間書店 (369/イ)

「原発に頼らない電気を自分たちで…」再生可能エネルギーによる地産地消の電力会社を作ったのは造り酒屋の主人や和牛農家、元居酒屋店主など素人集団。彼らの不屈の挑戦は私たちの希望だ。

『建築家になりたい君へ』 隈研吾 河出書房新社 (520/ク)

コロナ後の「君」がつくる未来の建築は、これまでとは逆の方向へ向かわなければならないと言う。その隈さんの事務所で、町の木材を活用して西桂町新庁舎を設計するそうです。楽しみだね。

『ダチョウはアホだが役に立つ』 塚本康浩 幻冬舎 (646/ツ)

ダチョウには並外れた免疫力があり、様々な感染症から人間を守ってくれるんだって。ダチョウの卵から抗体を取り出す技術を開発した博士が、関西弁で語る研究の悲喜こもごもが抱腹絶倒！

『歌集 前線』 犬養楓 書肆侃侃房 (911.1/イ)

「咽頭をぐいと拭った綿棒に百万人の死の炎美ゆ」最前線の医師が残したい「声にならない声」

『9月9日9時9分』 一木けい 小学館 (913.6/イ) …♡♡♡←キョン度指数

タイで幼少期を過ごした高1の漣にとって、日本は息苦しい場所だ。偶然見かけた先輩の朋温に心を奪われるが、彼との恋は、漣の家族を傷つけることだった。「別々の場所で幸せになるくらいなら、同じ場所で不幸になりたい」と言う朋温。諦めようとする漣。タイに旅した漣を追うように朋温は…。バンコク在住の著者が描くタイの風物や人々の温かさ、タイトルの「9」の意味にも注目！

『代理母、はじめました』 垣谷美雨 中央公論新社 (913.6/カ) …!!!←マジか指数

富士山が噴火し、首都は長野に移され、荒れ果てた東京に生きる16歳のユキ。義父に謝礼目当てで代理母にさせられた経験から、同級生のミチオや医者の子の芽衣子の助けを借りて、代理母紹介ビジネスを立ち上げる。相次ぐ災害、貧困、格差、人口減少。衝撃的な近未来の物語で、女性の生きづらさを浮き彫りにする。

話題の新刊も続々新着！！～

東野圭吾『白鳥とコウモリ』 幻冬舎、林真理子『8050』 新潮社、
瀬尾まいこ『その扉をたたく音』 集英社、中島京子『ムーンライト
・イン』 KADOKAWA、中山祐次郎『走れ外科医 泣くな研修医3』
幻冬舎、西尾維新『掟上今日子の鑑札票』 講談社…etc.

◆ 編集後記 図書委員会の活動が始まりました。昼休みはクラス毎に係を担当します。クラスの委員を応援に来てね～♪

『つまらない住宅地のすべての家』

津村記久子 双葉社 (913.6/ツ)

家は人の心のような。どんな秘密も、ドア一枚で隠してしまう。…静かな住宅地の10軒の家。刑務所から脱走した女がこの辺りに向かっているらしい。見張りを立てようと住人達が関わり始め、秘密が少しずつ動き出す。1軒ごとに描かれる登場人物に混乱する。が、読者の混乱こそ、著者の企み、小説の愉しみ。読後感至極爽快な一冊です。

司書の
イチオシ